令和５年度　教育事業実施報告

国立沖縄青少年交流の家

１　教育事業名　令和５年度「美ら島サンゴ大作戦」

２　ね　ら　い　　国立公園に指定されている慶良間諸島の豊かな自然の中で、スノーケリング活動を通したサンゴの観察等、直接体験を重視し、ESD の視点を取り入れた海の環境学習の実践に取り組み、環境問題への関心を高め、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を育む。また、サンゴを題材（教材）として生物多様性や環境問題について、専門家から学んだことや体験活動から習得した学び（知識及び技能）を活かし、他者と話し合い（対話）、ふり返り及びまとめ（思考力・判断力）を行い、自分の考えや想いを発信（表現力）することにより、「ジブンゴト」「ミヂカゴト」として「価値観と行動の変容」を育み、一歩踏み出す（学びに向かう力、人間性の向上）ことができる課題解決能力を醸成する。

３　期　　　日　令和５年９月１６日（土）～１８日（月）２泊３日

４　場　　　所　国立沖縄青少年交流の家

５　募 集 定 員　２４名

６　参 加 人 数　２２名

７　参加者内訳　小学５年生　６名　小学６年生　　４名
中学１年生　６名　中学２年生　　２名　中学３年生　４名
（男子１３名、女子９名）

８　講　　　師　・米田 英明　氏（琉球新報社通信員）
サンゴと暮らし～人々の暮らしの中で～「根元家石垣見学」
・森　有紀子　氏（特定非営利活動法人　海の自然史研究所）
サンゴのテリトリーウォーズ
サンゴと暮らし～「ジブンゴト」「ミヂカゴト」について考える～
・谷口 洋基 氏（慶良間諸島国立公園 ビジターセンター さんごゆんたく館 館長）
さんごの話～サンゴの役割と生物多様性～
・大城 敏 氏（パドリングガイド漕店）
・小渕 正美（国立沖縄青少年交流の家 事業支援室 総務係）
スノーケリングの基礎と海中観察
慶良間海峡のサンゴ生態系ウォッチンング
まとめ・発表

９実施プログラム

大潮　満潮7:08(197cm) 19:28(197cm)　干潮1:08(48cm) 13:20(28cm)

		9:00	10:00	11:40	12:00	13:00	15:30	16:00	17:00	18:00	19:00	20:30	21:30	
9/16 (土)		集合 受付	フェリー	オープニング	昼食	(13:00-15:00) (2.0h)海洋研修場 渡嘉志久浜の観察 「スノーケリングの基礎と海中観察」	移動	(16:00-17:00) (1.0h)渡嘉敷集落 サンゴと暮らし 「根元家石垣見学」	本館移動	夕食	(19:00-20:30) (1.5h)本館 サンゴのテリトリーウォーズ	入浴	就寝準備	就寝

中潮　満潮7:40(195cm) 19:49(198cm)　干潮1:35(41cm) 13:45(35cm)

	7:00	7:40	8:45	9:15	12:00	13:00	13:30	14:00	16:00	16:30	17:30	18:30	20:00	21:00
9/17 (日)	準備	朝食	海研場 移動	(9:30-11:30) (2.0h)慶良間海峡沿岸(アリガー) サンゴウォッチング 「慶良間海峡沿岸サンゴ生態系ウォッチング」	昼食 (注弁)	本館 移動	ゆとりの時間	(14:00-16:00) (2.0h)本館 サンゴの話 「サンゴの役割と生物多様性」	ゆとりの時間	入浴	夕食	(18:30-20:00) (1.5h)本館 サンゴと暮らし 「ジブンゴト」と「ミヂカゴト」について考える	就寝準備	就寝

中潮　満潮8:12(190cm) 20:11(196cm)　干潮2:02(35cm) 14:10(45cm)

	7:00	7:40	9:00		12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:10	17:45
9/18 (月)	準備	朝食清掃点検	(9:00-9:30) (0.5h)本館 「人に伝わるまとめ方、話し方」	(9:30-12:00) (2.5h)本館 まとめの時間	昼食	(13:00-14:00) (1.0h)本館 発表	エンディング	渡嘉敷港移動	フェリー	(0.5h) 報告会 解散式	解散

１０　事業の様子

スノーケリングの基礎実習

根元家の石垣見学

サンゴのテリトリーウォーズ

慶良間海峡でサンゴ観察

慶良間海峡でサンゴ観察

サンゴの生態について

自分ができること

まとめの時間

グループ発表

１１　エピソード（参加者の声、アンケートより抜粋）
【参加者の声】
・ものすごく深く知れ、ためになった。
・サンゴウォッチングが楽しかった。
・サンゴはいろんな物に使われていることが分かった。
・あんなに深くて、キレイな海に潜るのは初めてだった。
・サンゴも環境に弱いと分かった。

１２　担当者所見
（１）成果
・参加者全員がスノーケリング活動を行い、サンゴを観察することから地球の環境について考えることができた。
・「サンゴテリトリーウォーズ」を通して、人間の生活（ゴミや汚水、赤土問題）がサンゴに影響を及ぼしていることを理解することができた。
・体験したことや学んだことに ESD の視点をもたせることによって、「自分に何ができるのか」「何を伝えたいのか」について考えを深めまとめることができた。
（２）課題
・より安全かつ効果的な事業運営のために、班活動を支援するスノーケリングインストラクターやファシリテーターについて、適切な人数を確保できるよう計画的に調整を行う必要がある。
・今年度は天気に恵まれてほぼ計画通りに終えることができたが、天候が大きく影響する事業であるため、荒天時に本来の目的が可能な限り達成されるようなプログラムを事前に計画をしておく必要がある。
・ESD の視点をもって活動に取り組むことで深い学びにつながっているので、ワークシート等に SDGs でのふり返りも検討したい。